

千 玄室氏が語る
**千 利休
切腹の真実**

当支部団員さんより
投稿頂きました

原文のまま記載

■歴史歪曲の卑近な一例

千利休が豊臣秀吉から切腹させられた真実の理由を日本の歴史教科書、百科事典等には「大徳寺山門に自像を安置した罪と」実しやかに歪曲され伝えられている。

「世界平和祈願の茶会を38度線で開催したい」

6月1日に行われた京都日韓親善協会の設立総会開催前、日本国連親善大使で裏千家前家元の千玄室大宗匠（85）は、李相善本紙代表のインタビューに答えて、朝鮮半島の38度線で平和茶会を開催する構想を語った。

千前家元は、「千利休は秀吉に朝鮮侵略を、体を張って阻止しようとして切腹を命じられた。その子孫である私が率先して38度線で茶会を通して平和の大切さを訴える使命がある」と、38度線での茶会開催の思いを語った。

また、2年前にノーベル平和賞を受賞したバングラデシュの経済学者、ムハマド・ユヌスさんが訪日した際、茶をふるい、「北緯38度線で平和の茶会を開きたい」という話題を出し、ユヌスさんは「ぜひ一緒に行きたい」と笑顔で応じた。

京都日韓親善協会総会での会長就任あいさつでは、「京都府、市民、在日韓国人の方々とともに世界平和の礎となるよう努力していきたい」と平和への決意を新たにしていた。

コリアンワールド 2008年7月10日号

京都日韓親善協会総会で語る 千 元室大宗匠氏
(日本国連親善大使)

